

## 職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名	設置認可年月日	校 長 名	所 在 地			
アップルスポーツカレッジ	平成5年12月6日	学校長 高山 俊彦	〒950-0932 新潟市中央区長潟2-2-8 (電話) 025-286-5191			
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所 在 地			
学校法人 国際総合学園	昭和32年 10月 10日	理事長 池田 弘	〒951-8065 新潟市中央区東堀一番町494番地3 (電話) 025-210-8565			
目 的	現在、精神的豊かさを取り戻すことが求められる我が国の現状を踏まえ、国境や文化・年齢を超えてスポーツを楽しむことが推奨されている。こうした国際化・多様化していく生涯スポーツ及び健康の育成におけるスペシャリストの果たす役割はますます大きくなっている。また今後の日本スポーツ界発展の為に、国際化する社会をグローバルに見つめ時代の変化に柔軟に対応できる能力をもつスポーツスペシャリストの育成と、その基盤となる地域スポーツ振興が今まで以上に望まれていることは明らかである。これらから本校は、スポーツ、教育、文化活動を通して、日本スポーツ界の発展並びに、地域、国家社会の発展に寄与することを目的とする。具体的な活動として、「健康」をテーマに、健やかな発育、健やかな生活、健やかな老いをWELLNESSと言う概念のもとに、人々の健康サポートする心豊かな「健康アドバイザー」の育成を目指す。キッズから高齢者までの指導ができ、即戦力となる指導者の育成、コミュニケーション能力とプレゼンテーション能力の向上、社会人としてのマナーを身に付ける。					
分野	課程名	学科名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
文化・ 教養	文化・教養 専門課程	健康スポーツ科 (チャイルドスポーツコース)	2年 昼	2318単位時間 (又は単位)	平成19年 文部科学省告示 第20号	—
教育課程	講義	演習	実験	実習	実技	
	676単位時間 (又は単位)	906単位時間 (又は単位)	単位時間 (又は単位)	736単位時間 (又は単位)	単位時間 (又は単位)	
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
80人	74人(22人)	1人	3人	4人		
学期制度	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 前期：4月1日～9月30日</li> <li>■ 後期：10月1日～3月31日</li> </ul>			成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 成績表(有)</li> <li>■ 成績評価の基準・方法について A～Eの評価でEは単位不認定</li> </ul>	
長期休み	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 学年始め：4月9日</li> <li>■ 夏 季：7月31日～8月31日</li> <li>■ 冬 季：12月26日～1月7日</li> <li>■ 学 年 末：2月20日</li> </ul>			卒業・進級条件	進級基準・卒業基準は、年間54単位以上の修得	
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ クラス担任制(有)</li> <li>■ 長期欠席者への指導等の対応 個別面談・保護者との連携等</li> </ul>			課外活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 課外活動の種類</li> <li>■ サークル活動(有)</li> </ul>	

就職等の状況	<b>■主な就職先、業界等</b> <b>■就職率<sup>※1</sup> 100%</b> <b>■卒業者に占める就職者の割合<sup>※2</sup></b> 92.2% <b>■その他（任意）</b> （平成25年度卒業者にに関する平成26年3月時点の情報）	主な資格・検定	保育士・幼稚園教諭二種、日本体育協会スポーツリーダー、ジュニアスポーツ指導員、健康運動実践指導者、キャンプインストラクター、レクリエーションインストラクター、小児MFA
中途退学の現状	<b>■中途退学者 8名 ■中退率 2.2%</b> 平成25年4月1日在学者 364名（平成25年4月入学者を含む） 平成26年3月31日在学者 356名（平成26年3月卒業生を含む） <b>■中途退学の主な理由</b> 目的意識の低下、学修意欲の低下、経済的理由等 <b>■中退防止のための取組</b> 個別面談の実施、各種アンケートの実施及び分析等		
ホームページ	URL: <a href="http://www.applesports.jp/">http://www.applesports.jp/</a>		

※1 「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」の定義による。

- ① 「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとする。
- ② 「就職率」における「就職者」とは、正規の職員（1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいう。
- ③ 「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

※ 「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。

※2 「学校基本調査」の定義による。

全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。）

## 1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成26年10月8日現在

名 前	所 属
村山 哲二	ベースボール・チャレンジリーグ
池田 拓史	(株)新潟アルビレックス・ベースボール・クラブ
早川 貴章	(株)新潟バスケットボール
高山 俊彦	アップルスポーツカレッジ 学校長
石井 和昭	アップルスポーツカレッジ 副校長
本間 圭一	アップルスポーツカレッジ 教務部長
西海 幸頼	アップルスポーツカレッジ 健康スポーツ科科长
佐野 英朗	アップルスポーツカレッジ トレーナー科科长
鹿間 宏海	アップルスポーツカレッジ プロスポーツビジネス・スポーツビジネス科科长

(開催日時)

第1回 平成26年10月1日 18:00～19:00

第2回 平成26年10月8日 18:00～19:00

## 2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

企業・業界団体等の意見をもとに専門分野の動向、要望を教育課程に取り入れ、実践かつ専門的な知識・技能を持った人材育成教育を目指し、現場に必要とされる即戦力の人材を育成する。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
健康スポーツ演習	健康スポーツの主流である4種目を体験し、正しい姿勢や指導などを学ぶ	アルススイミングクラブ

## 3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

企業・業界団体の基礎知識・技術はもちろんの事、最新の業界動向・市場を企業側と学校担当者は密に連携をして、情報収集及び最新の知識・技術を体得していく。学校担当者は業界側と同じ着眼点やレベルで学生指導ができるように努める。また学校側として職員レベルに合わせて計画的に研修を遂行し、人材育成に努める。

## 4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成26年10月8日現在

名 前	所 属
内藤 真理子	(株)新潟アルビレックス・ベースボール・クラブ
植野 翼	(株)新潟アルビレックスランニングクラブ
蟻浪 亮	(株)新潟プロバスケットボール
高山 俊彦	アップルスポーツカレッジ 学校長
石井 和昭	アップルスポーツカレッジ 副校長
本間 圭一	アップルスポーツカレッジ 教務部長

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL: URL: <http://www.applesports.jp/>

## 5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL: URL: <http://www.applesports.jp/>

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程健康スポーツ学科 チャイルドスポーツコース) 平成26年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技
○			身体のしくみ	身体の基礎知識を学び、筋肉、骨、関節、臓器などの名称や特徴、働きなど学ぶ	1前	30		○		
○			スポーツニュートリション	スポーツ時の体内のメカニズムに合わせた栄養補給の方法と基礎栄養を学び、指導者としてスポーツ選手の食事アドバイスについて学ぶ	1後	30		○		
○			健康スポーツ演習	健康スポーツの主流である4種目を体験し、正しい姿勢や指導などを学ぶ	1通年	60			○	
○			ジュニアスポーツ指導法Ⅰ・Ⅱ	ジュニア期に必要な運動（基本動作の習得）の必要性を理解し、子どもの発育に合わせた運動プログラムやキッズスポーツを行う。	1前・後	30			○	
○			ジュニアスポーツ論	子どもとスポーツの出会いを理解し、幼少期の運動の必要性について理解する。また、ジュニアスポーツ指導員の役割を理解する。	2後	30		○		
○			ジュニアスポーツ指導演習	キッズスポーツを体験し、子どものスポーツ指導法を学ぶ。キッズサッカー、キッズテニスを行い実践できるようになる。	2後	30			○	
○			健康運動理論	健康とは何かを理解し、その健康づくりや維持するための運動基礎知識を学ぶ。	2前	30		○		
○			機能解剖学	運動生理学、機能解剖とバイオメカニクスを学ぶ。	2前	30		○		
○			健康運動指導者対策	健康運動実践指導者のための正しい知識と技術を身につける。また、適切な運動指導、プログラム作成ができるようにする。	2後	30		○		
合計					9科目		単位時間 ( 単位)			

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程健康スポーツ学科 チャイルドスポーツコース ) 平成26年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技
○			健康運動実践指導者実技対策	健康運動実践指導者受験のための実技対策授業。陸上運動、水中運動の指導技術を学ぶ。	2後	30				○
○			スポーツクラブ論	スポーツクラブの歴史や活動を知り、スタッフなどの仕事からマネジメントを学ぶ。	2前	30	○			
○			キネシオ & バランス	キネシオテープの技術やバランスボール運動指導を学ぶ。	2前	30			○	
○			卒業研究	各授業においてスポーツ指導の基礎理念を学び、現場実習にて身につけた指導技術を発表する場として「スポーツイベント」の企画・運営を行う。	2後	30	○			
○			現場実習 I・II	各コースの特徴である現場で実際の指導経験をはじめ、スタッフの仕事を通して実習地の運営も学ぶ。	一通・2通	300			○	
○			STEP 研修 I・II	業界の一線で活躍している方々より講義を頂き、知識・技術をの向上を図る。	全通年	32	○			
○			STEP UP CAMP I・II	業界の一線で活躍している方々より講義を頂き、知識・技術をの向上を図る。	1前・2前	48		○		
○			SKILL UP CAMP I・II	業界の一線で活躍している方々より講義を頂き、知識・技術をの向上を図る。	1後・2後	48		○		
○			日赤救急法・救急員	日本赤十字社公認の救急法救急員資格を取得するために、救急時の看護の基本的知識とその技術について学ぶ。	1前	16			○	
合計					9科目	単位時間 ( 単位)				

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程健康スポーツ学科 チャイルドスポーツコース) 平成26年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技
○			幼児指導内容Ⅰ	実習日誌の書き方を学ぶ。ねらいの立て方、環境構成及び指導者の援助・実習生の動きについてどのような視点で書くのかを練習し、学んでいく。指導案の立て方を学ぶ。活動の流れ、指導上の留意点、環境、アシストを想定しながら、導入、展開、まとめと順を追って計画を立てていく。	1 前	30		○		
○			幼児指導内容Ⅱ	現場実習をするにあたり、指導法、注意点、環境構成等を自分たちで話し合いながら作成をし、シュミレーションを通して課題、疑問点見つけ、解決をしていながら学ぶ。	2 通	60			○	
○			レクリエーション理論	レクリエーションインストラクター取得のための基礎知識を学ぶ	1 前	30		○		
○			レクリエーション実技	レクリエーションインストラクター取得のための実技を習得し、指導できるようにする。	1 後	30			○	
○			コーディネーショントレーニング	子ども達の運動能力を高めるトレーニングを学び、指導できるようにする。	1 前	30			○	
○			チャイルドスポーツ論Ⅰ	健康についての考え方や、運動遊び、身体を使った遊びなどを中心に理解を深めていく。幼児教育・保育に視点を置き、乳幼児の健康と成長を促す活動はどのようなものか、活動を中心に展開していけるような指導者のための「健康」を考えていく。	1 通	60			○	
○			チャイルドスポーツ論Ⅱ	成長期における心の特徴・発育を指導の観点から詳説する。年齢発達に応じて必要なスキンシップとコミュニケーションに役立ち遊びへの導入となる遊びを演習する。	1 通	60			○	
○			素材研究Ⅰ	廃材や自然のもの、身近にあるものなどを使って、おもちゃ作りや教材作りを行なう。また、素材をうまく使いながらスポーツ活動ができるようにする。	1 後	30			○	
○			素材研究Ⅱ	幼児にかかわる仕事の中で活かせる素材を学習	2 通	60			○	
合計					9科目	単位時間 ( 単位)				

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程健康スポーツ学科 チャイルドスポーツコース) 平成25年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技
○			キッズス ポーツ演習Ⅰ	幼児の年齢的な特徴を理解し、運動指導のプログラムを立てる。現場での体験を通し、運動技能技術を習得する。	1 通	60			○	
○			キッズス ポーツ演習Ⅱ	幼児の年齢的な特徴を理解し、運動指導のプログラムを立てる。現場での体験を通し、運動技能技術を習得する。	2 通	60			○	
○			チャイルド 現場実習Ⅰ	現場実習を通して、子どもたちとふれ合い、現場の様子を学び、自ら実習での役割を見つけ出し、現場実習に意欲的に取り組む。様々な施設や環境が子どもたちにはあるということを学ぶ。	1 通	60				○
○			チャイルド 現場実習Ⅱ	現場実習（インターシップ）を通して、自主性を養う。社会に出る第一歩として、社会常識を学び、指導者としての自覚をもって現場の雰囲気、仕事内容を学ぶ。就職に結びつく、社会学習を自ら気付き学んでいく。	2 通	90				○
○			体操実技Ⅰ	体操実技Ⅰでは、器械運動の基礎技能の習得と補助のやり方、段階的指導法をねらいとして授業を行なう。マット・跳び箱・鉄棒運動を中心に、技能の獲得及び技能の向上を目指しながら器械運動の特性を理解する。	1 後	30				○
○			体操実技Ⅱ	体操実技であるマット、とび箱、鉄棒の技術を習得し、子ども達に指導ができ、補助法を加えた指導法を習得する。	2 前	30				○
○			トレーニン グ実技	トレーニングマシンの知識と技術および指導法を習得する。	1 前	30				○
○			キッズエク ササイズⅠ	前期で幼稚園用ダンスを踊れるようになり、作り方を覚える。後期は自分たちで1曲作れる様になる。そのダンスを発表できるようになる。	1 通	60			○	
○			キッズエク ササイズⅡ	運動の土台となる体を使った基本的動作や運動遊び。様々な道具を使った運動遊び。バリエーションを増やす	2 通	60			○	
合計					9科目		単位時間（ 単位）			



授業科目等の概要

(文化・教養専門課程健康スポーツ学科 チャイルドスポーツコース) 平成25年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技
○			幼児体育指導法	授業で学んだ指導法や、子どもたちへの指導技術を実際に計画を立て、現場で実習をする。	2 通	120				○
○			H R I	自己能力や自己啓発を促すための授業	1 年 通 年	60		○		
○			P C I	WOED3級を取得するための対策授業	1 年 通 年	60			○	
○			コミュニケーション検定対策	コミュニケーション能力検定初級を取得するための対策授業	1 年 前 期	30		○		
○			就職実務学	就職活動に向けた対策授業	2 年 後 期	30		○		
○			H R II	自己能力や自己啓発を促すための授業	2 年 通 年	60		○		
○			P C II	EXCEL3級を取得するための対策授業	2 年 通 年	60			○	
○			トレーニング科学	メディカルチェックの基礎知識。生活、健康調査法、体力測定機器に関する基礎知識論、体力評価法等	1 前	20		○		
○			競技者育成システム論	競技者育成と評価、競技者育成システムにおける指導計画、チームマネジメント、競技スポーツとIT	1 前	10		○		
合計				9科目		単位時間 ( 単位)				

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程プロトレーナー学科 チャイルドスポーツコース) 平成26年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技
○			コーチング Ⅰ	スポーツ指導の基礎、スポーツ指導の原則、指導形態、スポーツ指導の実際評価の方法とその活用等	1 前	10		○		
○			スポーツ心 理学	運動技能の心理的特性、運動と効果、運動と知覚、運動意欲、運動場面と情動、運動指導の心理学等	1 後	20		○		
○			スポーツ医 学Ⅰ	スポーツと健康、スポーツ活動中に多いケガや病気、救急処置等	1 後	10		○		
○			スポーツ医 学Ⅱ	アスリートの健康管理、内科的疾患と対策、外傷、障害と対策、アスレティックリハビリテーションと計画等	1 後	20		○		
○			スポーツ社 会学Ⅰ	社会体育の基本の考え方、スポーツと社会、文化としてのスポーツとその内容、スポーツ集団、組織、商業スポーツ論等	1 後	4		○		
○			スポーツ社 会学Ⅱ	社会体育の基本の考え方、スポーツと社会、文化としてのスポーツとその内容、スポーツ集団、組織、商業スポーツ論等	1 後	5		○		
○			スポーツ経営 学	スポーツ経営の概念・構造・組織をはじめスポーツ事業の計画と運営・予算と財務管理・法律等	1 後	10		○		
○			スポーツ栄 養学Ⅱ	エネルギー源としての栄養素、食物の必要性と食習慣、水分補給とスポーツドリンク、練習プログラと食生活等	2 後	5		○		
○			スポーツ栄 養学Ⅰ	エネルギー源としての栄養素、食物の必要性と食習慣、水分補給とスポーツドリンク、練習プログラと食生活等	2 後	3		○		
合計					9 科目		単位時間 ( 単位)			

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程プロトレーナー学科 チャイルドスポーツコース) 平成26年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技
○			発達発達論 Ⅰ	発達発育期の身体的特徴、心理的特徴、ケガや病気、中高年者とスポーツ、女性とスポーツ、障害とスポーツ等	2 前	6		○		
○			トレーニング 論	トレーニング理論とその方法、トレーニング計画とその実際、体力テストとその活用、スキルの獲得と獲得課程	2 前	4		○		
○			運動生理学	運動器のしくみと働き、呼吸循環器系の動きとエネルギー供給、スポーツバイオメカニクスの基礎等	2 後	10		○		
○			スポーツ行 政学	スポーツ経営の概念・構造・組織をはじめスポーツ事業の計画と運営・予算と財務管理・法律等	2 後	4		○		
○			発達発達論 Ⅱ	発達発育期の身体的特徴、心理的特徴、ケガや病気、中高年者とスポーツ、女性とスポーツ、障害とスポーツ等	2 後	10		○		
○			コーチング Ⅱ	スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任、スポーツと人種、プレーヤーと指導者の望ましい関係等	2 前	13		○		
合計				6科目	2318単位時間 (			単位)		